

成城学園創立百周年記念出版

不二出版

復刻版

成城学園時報

全2巻・付録1・別冊1

体裁ⅡB4判(付録A5判)・上製・総824頁

付録Ⅱ『成城文化史』(1936年刊)

別冊Ⅱ解説・総目次・索引

解説Ⅱ青柳恵介

推薦Ⅱ岩田一正・木村元

刊行Ⅱ2017年5月

揃定価Ⅱ本体66、000円＋税

1929年に旧制成城高等学校で創刊された学内新聞を復刻。
「新教育」の理念と内実をうかがえる貴重資料である。



復刻にあたって

一九二六（大正一五）年四月に開校した旧制成城高等学校では、一九二九年（昭和四）年一〇月に『成城学園時報』が創刊された。既に刊行されていた校友会雑誌『城』の部報欄を独立させ、学園全体の機関新聞とするのが本紙の主旨であった。

第一号、第二号は文芸部主宰だったが、第三号（一九三〇年一月）より新たに作られた新聞部が発行母体となった。また第五号（一九三〇年四月）からは柳田國男を名誉顧問に迎えている。キャンプや水泳大会等学園の行事、ラグビー部やテニス部など各部の試合結果や活動内容紹介などの記事をはじめ、教師や卒業生の投稿、学生が書いた政治・文化評論等、多様な記事が収載されており、当時の学生生活の様子を生き生きと伝えている。また文面は本格的で、学生の文章表現能力の高さを垣間見ることできる。

本紙は第一一七号（一九四〇年一〇月）のあと長い休刊に入り、一九四六年六月の第一一八号より「時報部」が発行母体となり再出発する。また学制改革で一九五〇年に旧制成城高等学校が廃止されると、新制の成城学園高等学校に発行が引き継がれた。本復刻版では旧制成城高等学校時代の『成城学園時報』、また付録として『成城文化史』（一九三六年刊）を収録する。

二〇一七年に百周年を迎えた成城学園の歩みを証言する貴重な資料である。

関連年表

1917 東京市牛込区（現・東京都新宿区）原町に成城小学校創設

1922 成城第二中学校開校

1925 成城第二中学校を府下北多摩郡砧村喜多見（現・世田谷区成城）に移転。成城玉川小学校併設・成城幼稚園開園

1926 成城高等学校（七年制）開校。成城第二中学校廃止

1927 成城高等女学校（五年制）開校

1928 牛込の成城小学校を祖師谷地区に移転。成城玉川小学校を併合

1929 『成城学園時報』創刊

1940 『成城学園時報』休刊（第一一七号）

1941 成城小学校を成城初等学校に改称

1946 『成城学園時報』再刊（第一一八号）

1947 成城学園中学校開校。成城初等学校を成城学園初等学校に改称

1948 成城学園高等学校開校。旧制成城高等女学校（五年制）廃止

1950 成城大学開校。経済学部、理学部設置。

旧制成城高等学校（七年制）廃止

1951 学校法人成城学園認可

～ ～

2017 成城学園創立百周年を迎える

成城学園、成城高等学校の歩みと 旧制高校文化を探究する史料

岩田 一正（成城大学教授、
成城学園百年史編纂委員会委員）

成城小学校が創立されたのは一九一七年のことであり、二〇一七年に百周年を迎えた。その記念すべき年に、一九二六年に創立された成城高等学校の新聞部発行（当初は文藝部発行）の学生新聞『成城学園時報』が復刻されることを喜びたい。同紙は第一に、昭和初期から敗戦直後までの成城学園や成城高等学校の歴史や文化を探究できる史料である。例えば、同紙を史料として、我々は一九三三年に生じたいわゆる成城事件（小原事件）を、学生の目から記述することができる。また他方で、同紙には、同紙や学園、校友会、学生生活の在り方を論じる学生の論考、学生の文芸作品、教員や保護者、そして旧制大学に進学した卒業生の文章、学校行事、クラブ活動、各種の対外試合やコンクールの模様、学生が関心をもっていた小説、演劇、映画、展覧会、講演会、時事問題などを論じたり、紹介したりする記事などが数多く掲載されている。それゆえ、同紙は第二に、成城高等学校に留まらない旧制高校にかかわる、制度史や思想史に還元し切れない、当該時期の生きられた教育史を分析できる史料群ともなっている。

また、付録である『成城文化史』（一九三六年）刊行の経緯は、『成城学園時報』第七八、七九号に詳細に記されているが、同書は成城高等学校創立十周年を記念して新聞部が刊行する予定であったものを、同校同窓会が刊行することとなったものであり、成城高等学校の前半期に見られるさまざまな軌跡を辿ることができる必読文献となっている。

新教育の理念とエリート養成の実態に迫る

木村 元（二橋大学教授）

成城高等学校新聞部を中心的な発行母体とする『成城学園時報』が復刊される。この史料のおもしろさはさまざまあるが、なによりも帝国大学への経路というオーソドキシ（正統性）と新教育の既成の秩序への挑戦という理想の間にある学校の内側の声の集録にあると考える。

成城高等学校は七年制の旧制高等学校である。旧制高等学校は、戦前の学校体系の頂点に位置づけられた帝国大学への正系のルートとして、近代日本の指導者や知識人を輩出したエリート養成の男子校として君臨した。当初は中学校五年の上に三年制としておかれていたが、一九一九年に七年一貫の制度も発足した。これは、戦前において台湾を含めて官・公・私立の総計で九校のみであった。そのうち成城高等学校は、新学校である成城小学校をコアとする幼稚園から小学校、中学校とつながる教育体制の一貫のなかにある学校でもあった。新学校は、教師中心、教科書中心、暗記中心の国家によって制度化された学校を「旧教育」として批判し、子ども中心、自発的な学びを標榜したが、澤柳政太郎によって創設された成城小学校はその代表的なものといえる。

こうしたエリート養成と新教育というふたつの性格を内包する学校のなかで、生徒はどのように存在したのであるか。『時報』には、学校案内に示された「理想」と現実の前に「成城は単なる帝大入学の予備門になった」のではないかとしつつも、第三者的な安易な批評を戒める言説（第五号）もみられ、その葛藤の一端がうかがえる。

新教育の理念とエリート養成はどのように接合されたのか。その実態に迫る貴重な史料といえるだろう。

昭和十一年七月十

主要原稿検閲不通過で 「十周年記念号」の発行 新聞部断念の憂目 同窓會より出版

我が新聞部の断念は、十周年記念号の発行を断念したものである。これは、主要原稿の検閲に不通過したためである。同窓會より出版する。

(一) 號 一 第

報 時 園 學 城 成

日七十月十年四和昭

成城學園時報

學園の師父

澤柳博士胸像除幕式
しめやかな雨の中に



成城學園の創立十周年を記念して、澤柳博士の胸像除幕式が、十月七日（日）午後二時、成城學園講堂において行われた。当日は、しめやかな雨の中、多くの来賓が参列した。澤柳博士は、成城學園の創立者であり、その功績は、學園の発展に大きく貢献した。この胸像除幕式は、澤柳博士の偉業を後世に伝えるための重要な行事である。

徹夜の尊さ 小原 國芳

徹夜の尊さ、それは、人間の精神の限界を押し広げる行為である。小原國芳は、徹夜の尊さを、人間の精神の限界を押し広げる行為として捉えている。徹夜は、人間の精神の限界を押し広げる行為であり、それは、人間の精神の限界を押し広げる行為である。

氣候断片 仲原 生

氣候断片、それは、人間の精神の限界を押し広げる行為である。仲原生は、氣候断片を、人間の精神の限界を押し広げる行為として捉えている。氣候断片は、人間の精神の限界を押し広げる行為であり、それは、人間の精神の限界を押し広げる行為である。

劇場の秋 川原 健二

劇場の秋、それは、人間の精神の限界を押し広げる行為である。川原健二は、劇場の秋を、人間の精神の限界を押し広げる行為として捉えている。劇場の秋は、人間の精神の限界を押し広げる行為であり、それは、人間の精神の限界を押し広げる行為である。

▲第1号（1929年10月17日）

▼第5号（1930年4月25日）

日二月十年四十和昭

(四)

勤勞報國際

代表に聴く

ルポルタージュ



勤勞報國際は、勤勞者の権利を擁護することを目的として創設された。代表に聴くは、勤勞者の権利を擁護することを目的として創設された。代表に聴くは、勤勞者の権利を擁護することを目的として創設された。

時 園 學 城 成

日五廿月一年八和昭

創立當時の精神に返り 成城維新を實現せん

突然職員會議に提案した
小原校長の大々的改革案

創立當時の精神に返り、成城維新を實現せん。突然職員會議に提案した小原校長の大々的改革案。この改革案は、成城學園の発展に大きく貢献した。小原校長は、成城學園の発展に大きく貢献した。小原校長は、成城學園の発展に大きく貢献した。

上里新生徒主事

具體實現は漸次に發表

上里新生徒主事は、成城學園の発展に大きく貢献した。具體實現は漸次に發表。上里新生徒主事は、成城學園の発展に大きく貢献した。具體實現は漸次に發表。

▲第40号（1933年1月25日）

城 成

日五廿月四年五和昭

城成學園時報

新入生諸君

新入生諸君、成城學園の発展に大きく貢献してください。新入生諸君は、成城學園の発展に大きく貢献してください。新入生諸君は、成城學園の発展に大きく貢献してください。

如何に吾等は覺醒

運動を具體化するべきか

如何に吾等は覺醒、運動を具體化するべきか。この問いは、成城學園の発展に大きく貢献する。如何に吾等は覺醒、運動を具體化するべきか。この問いは、成城學園の発展に大きく貢献する。

▲第105号（1939年10月2日）

復刻版

成城学園時報

全2巻・付録1・別冊1

体裁ⅡB4判(付録A5判)・上製・総824頁

収録Ⅱ第1号〜第133号(1929年10月〜1949年10月)

付録Ⅱ『成城文化史』(分売価格 本体10、000円+税)

ISBN978-4-8350-8017-8

別冊Ⅱ解説・総目次・索引(分売価格 本体2、000円+税)

ISBN978-4-8350-8018-5

解説Ⅱ青柳恵介(元成城学園教育研究所勤務)

推薦Ⅱ岩田一正(成城大学教授)・木村元(二橋大学教授)

刊行Ⅱ2017年5月

揃定価Ⅱ本体66、000円+税

ISBN978-4-8350-8012-3



関連図書

萩原真美 解題

旧制成城高等学校尋常科地理自学書集

全1巻

体裁ⅡA5判・上製・函入・426頁

定価Ⅱ本体18、000円+税

旧制成城高等学校の母体となった成城小学校は、日本で最初にドルトンプランを採用した学校のひとつである。本書は、これに基づき旧制成城高等学校教員の仲原善忠と小蘭榮によって執筆された地理科のオリジナルテキスト(自学書)を4冊収録した。ドルトンプランによる教育の実態を物語る貴重な資料であると同時に、生徒が自主的に学習に取り込むための示唆に富む参考資料としても重要である。

水原克敏 編・解題

戦後改革期文部省実験学校資料集成

【第Ⅰ期】全9巻

体裁ⅡA4判・上製・総3、994頁

揃定価Ⅱ本体225、000円+税

戦後改革期における文部省の動向が分かる資料を含む、「東京高等師範」「東京学芸大学第一」「第三師範」「千葉師範」「長野師範」「奈良女子高等師範」の各附属小学校(一部中学校・高等学校)が報告した資料を収録。カリキュラム史、教育実践史研究に必須の資料である。

水原克敏 編・解題

戦後改革期文部省実験学校資料集成

【第Ⅱ期】全6巻

体裁ⅡA4判・上製・総2、498頁

揃定価Ⅱ本体150、000円+税

刊行Ⅱ2017年3月・9月(全2回配本)

〈第Ⅰ期〉につづき、〈第Ⅱ期〉を刊行。初等教育実験学校研究資料第1集から第25集(昭和27年〜36年発行)、ならびに昭和28年度・29年度研究発表要綱を収録。経験主義教育から系統主義教育への転換を示す重要資料である。

表示価格は、全て税別

不二出版

〒111-0033 東京都文京区向丘1-1-1
TEL 03-3821-4433
FAX 03-3821-4434
振替 001601194084